

a



эмэгтэй малгай

b



жанжин малгай

## malgai

### D0101

名称 帽子〈マルガイ〉

ウランバートル・ナラントール市場／モンゴル

#### a 女性帽〈エメグテエ・マルガイ〉

19世紀末から20世紀初頭に比較的身分の高い女性たちが日常で被った夏の帽子です。男性の将軍帽に同じく、女性が正装でかぶるものです。そのほか、民族舞踊の踊り子がかぶったりもします。

#### b 将軍帽〈ジャンジン・マルガイ〉

将軍帽（ジャンジン・マルガイ）は、男性が伝統衣装で正装するときに被る帽子です。またモンゴル相撲の選手も被る象徴的な帽子です。そもそも20世紀初頭、モンゴルが清朝から独立するときに活躍したスフバートル将軍の帽子をモデルにつくられたものです。とがった形は仏教で世界の中心にあるとされる須弥山を模したものだといわれています。またとがった頭頂の結び目は、モンゴル人が敬う火の象徴とも太陽ともいわれています。

c



чантуу тоорцог

d



ЛООВУУЗ

## малгай

## D0101

名称 帽子〈マルガエ〉

ウランバートル・ナラントール市場／モンゴル

c イスラム帽〈チャントー・トールツォグ〉

これは、モンゴル国内のイスラム教徒の男性が被る帽子である。モンゴル国は、実は多民族国家で西部のバヤンウルギー県やホブド県の一部地域には、カザフ人やウズベク人の末裔であるチャントー人らが居住している。彼らはイスラムを信仰しており、このイスラム帽を被る。

d 毛皮帽〈ローボーズ〉

ローボーズは、キツネなどの毛皮で作った、伝統的な冬の帽子です。毛皮の部分を上に折って紐で後ろを結わいてかぶります。かつて清朝時代の王侯貴族は、ローボーズには、ミンク製のものをかぶっていました。



## хүннү дээл(эрэгтэй)

### D0102

名称 長衣（男子用）〈フヌ・デール〉

ウランバートル／モンゴル

きょうど  
 匈奴デールは、近年に流行り出した古くて新しいデールです。従来のデールと異なり、詰襟がな  
 いことと袖首が細いのが特徴です。匈奴とは紀元前三世紀から紀元一世紀にかけてモンゴル高原  
 を含む中央ユーラシアで栄えた古代遊牧帝国です。一般的にモンゴル人は、匈奴を自らの先祖だ  
 と考えています。近年のモンゴルでは、ナショナリズムの高まりの中、従来の一般的なデールは  
 まんしゅう  
 満洲人に押し付けられたものであると考える人が出てきました。そうした中、匈奴デールは、満  
 洲的な要素のたて襟（チャイナドレスのような）を排除した、古（いにしえ）のデールだと解釈  
 され、好まれて着られるようになったのです。



## эрэгтэй дээрл

D0103

名称 長衣（男子用） デール

ウランバートル／モンゴル

デールには晴れ着と普段着があり、お出かけや結婚式など特別な日には絹でできたものや刺繍模様のはいったものを、それ以外の時には木綿のものまたは古くなった絹のデールを着用します。デールの下には洋服を着ており、ズボンにブーツというのが一般的です。伝統的なデールは風が隙間から入り込まないように工夫されており、ウマに乗るのに適したデザインになっています。元来、遊牧民は非常におしゃれで、デールにはさまざまな装飾や柄がありました。しかし社会主義時代（1924－1992）におしゃれは否定され、無地で装飾のないデールが「人民服」として生み出されました。一方、社会主義の崩壊にともない、現在では、さまざまなデザインのデールが生まれています。とりわけ女性の晴れ着デールには、上下がわかれたセパレートタイプや、体のラインにそったドレス型などが生み出されています。現在、都市部では洋服が普段着ですが、旧正月や卒業式などにデールは着られます。

### 島村先生からのコメント

われわれが知っている素朴なデールは実は社会主義時代の人民服だったんです。その当時は、ブーツもモンゴル靴ではなく、軍靴でした。



## хүннү дээл(эмэгтэй)

### D0104

名称 長衣（女性用）〈フヌ・デール〉

ウランバートル／モンゴル

きょうど  
 匈奴デールは、近年に流行り出した古くて新しいデールです。従来のデールと異なり、詰襟がな  
 いことと袖首が細いのが特徴です。匈奴とは紀元前三世紀から紀元一世紀にかけてモンゴル高原  
 を含む中央ユーラシアで栄えた古代遊牧帝国です。一般的にモンゴル人は、匈奴を自らの先祖だ  
 と考えています。近年のモンゴルでは、ナショナリズムの高まりの中、従来の一般的なデールは  
 まんしゅう  
 満洲人に押し付けられたものであると考える人が出てきました。そうした中、匈奴デールは、満  
 洲的な要素のたて襟（チャイナドレスのような）を排除した、古（いにしえ）のデールだと解釈  
 され、好まれて着られるようになったのです。



## ЭМЭГТЭЙ ДЭЭЛ

D0105

名称 長衣（女子用） デール

ウランバートル・ノミン百貨店／モンゴル

デールには晴れ着と普段着があり、お出かけや結婚式など特別な日には絹でできたものや刺繍模様のはいったものを、それ以外の時には木綿のものまたは古くなった絹のデールを着用します。デールの下には洋服を着ており、ズボンにブーツというのが一般的です。伝統的なデールは風が隙間から入り込まないよう工夫されており、ウマに乗るのに適したデザインになっています。元来、遊牧民は非常におしゃれで、デールにはさまざまな装飾や柄がありました。しかし社会主義時代（1924－1992）におしゃれは否定され、無地で装飾のないデールが「人民服」として生み出されました。一方、社会主義の崩壊にともない、現在では、さまざまなデザインのデールが生まれています。とりわけ女性の晴れ着デールには、上下がわかれたセパレートタイプや、体のラインにそったドレス型などが生み出されています。現在、都市部では洋服が普段着ですが、旧正月や卒業式などにデールは着られます。

a



бандийн хантааз

b



ТЭМЭЭН НООСОН ХАНТААЗ

## ХАНТААЗ

## D0106

名称 ベスト〈ハンターズ〉

ウランバートル／モンゴル

## a ベスト（男子用）〈バンディーン・ハンターズ〉

オージとよばれる長衣のベスト（はおり）が既婚女性（<sup>きこん</sup>）のものであるのに対して、短いベストは、未婚（<sup>みこん</sup>）の男女が着るものでした。あるいは、清朝時代は大臣や役人がデールの上から着ることも多かったようです。

## b ラクダ毛製（男女兼用）〈テメーン・ノーソン・ハンターズ〉

20世紀後半になって、ラクダの毛でつくられたチョッキが生産されるようになりました。ラクダのチョッキは軽く（<sup>あたた</sup>）暖かく、中高年に好んで着られています。また海外へのお土産品としても人気が高いです。



## D0107

名称 **はおり 女子用長衣ベスト〈オージ〉**

ウランバートル／モンゴル

モンゴルでは伝統的に既婚女性<sup>きこん</sup>は、デール（伝統的な長衣）の上に「オージ」とよばれるはおりを着ます。オージは、おしゃれ用と作業用に分かれます。モンゴル国では一般的にオージ<sup>いっほんてき</sup>と呼ばれますが、西方のオイラト系モンゴル人の間では「ツェグデグ」と呼ばれます。





## Бүс

### D0108

名称 帯〈布斯〉

ウランバートル／モンゴル

伝統的に帯は布製のものと革製のものの二種類がありました。革製の帯は、主に戦士がつけるものでした。遊牧民は、普段は、布製の帯を無造作にくるくると巻いて締めます。黄色、オレンジ、緑といった色が好まれます。男性は太くして締めるのに対して、女性は幾折りにして細くした帯をしめます。モンゴルでは女性を示す雅語で「布斯ガイフン（帯なしの人）」という言葉があります。女性はウシやヒツジの搾乳時に帯を締めないことに由来する言葉です。



## МОНГОЛ ГУТАЛ

### D0109

名称 **モンゴル靴〈モンゴル・ゴタル〉**

ウランバートル／モンゴル

寒冷地であるモンゴルでは、伝統的な靴はブーツです。モンゴル靴は牛革製で、つま先がそり上がっているのが特徴的です。ミシンがなかった昔、この分厚い牛革を縫い合わせるのに、ウシのアキレス腱を引き裂いて作った糸が使われていました。またブーツには、「オイムス」とよばれるフェルト製の分厚い「くつ下」がセットでついています。オイムスは、夏はとりはずして履きます。ブーツの上の模様部分をひっぱるととりはずせます。



## DOI 10

名称 **天幕（プラ製）〈ゲル〉**

ウランバートル／モンゴル

遊牧民の移動式住居をゲルといいます。遊牧民は牧草地をもとめて季節移動をします。折りたたみ式の壁と屋根木に天窓。3-4人の大人がいれば、1時間ほどで組み立て、解体ができます。夏には、ゲルを覆うフェルトカバーの裾をあげるので風通しが良いです。一方、冬には断熱性の高いフェルトカバーを二重にするのでストーブを焚けば暖かです。ゲルの天井にある天窓からは、太陽の光が差し込むため中は明るく、雨の時には天窓にカバーをかけて雨が降りこむのを防ぎます。近年、モンゴルでは都市化が進み、遊牧民の数も減少しています。そんな中、この模型は、ゲルを知らない都会の子どもたちのために作られたものです。



DOI II

таван хошуу мал

名称 <sup>ごちく</sup>五畜 <sup>がんぐ</sup>フェルト製玩具〈タワン・ホショー・マル〉

ウランバートル／モンゴル

これは、モンゴル遊牧民が飼育する五種類の家畜（ウマ、ウシ（ヤク）、ヒッジ、ヤギ、ラクダ）をかたどったフェルト製のおもちゃです。モンゴルでは、これらの5種類の家畜は、五畜（タワンホショー・マル）とよばれていますが、モンゴルの遊牧民は、この五種の家畜をすべて育てているわけではありません。ロシア国境に接する北部の針葉樹林帯では、寒さに弱いラクダは飼育されませんし、ゴビ砂漠では、暑さに弱いウシやヤクは飼育されません。五畜という言葉の方は、モンゴル国全体の牧畜文化をわかりやすく伝えるために社会主義の時代（1924-1992）につくられたものです。近年、遊牧生活を知らない都会の子どもや外国人へのおみやげとして、このようなフェルト製のおもちゃが作られるようになりました。

島村先生からのコメント

遊牧民の子どもは、本物のウシやウマが近くにいるので、このようなおもちゃはいらないかもしれませんね。



## МӨНГӨН аяга

### D0112

名称 銀椀 〈ムンゲン・アヤガ〉

ウランバートル／モンゴル

大きな銀椀は、その家の主人であることを象徴するものです。また来客にもてなす際に蒸留酒を入れるためにも使用します。立派な銀椀は、彫刻が多く施されていますが、かつて清朝時代には、ドルノゴビ県のダリガンガ地方が、銀椀などを作る銀細工職人が多くいることで有名でした。

#### 島村先生からのコメント

男性の学位取得や昇進などのお祝いとしてこの銀椀をプレゼントすることも多いです。



хадаг

DOI13

名称 絹糸〈ハダグ〉

ウランバートル／モンゴル

ハダグは大切な相手に贈り物をするときに使われる絹布けんぷです。女性の父親おくりものに結婚けっこんの許可をもとめに行くときや新年の挨拶あいさつのときなどにも使われます。ハダグを三つ折りにして前にのばして開いた両腕りょううでの上にかけて、真ん中をたるませるようにして贈り物と一緒に相手に手渡てわたされます。そのとき、折り目の口を相手に向けねばなりません。ハダグは相手に対する敬意けいのシンボルですが、贈る相手は人間に限られません。天の神や仏像しんせい、神聖な岩や木、石像、精霊せいれい人形、オヴォーつみいしづか（積石塚）など敬うべきものにはすべからず捧げられるのです。ハダグはチベットから伝わったもので、チベット語ではカダといいます。

島村先生からのコメント

三つ折りにしたハダグの折り目の口を相手に向けるのは、「相手に心を開いている」という意味なんですよ。

a



бойпор

b



арц

арц

## DOI14

名称 a 香炉〈ボイポル〉

ウランバートル／モンゴル

これはボイポルという名のチベット・モンゴルの仏教で使われる香炉です。灰を入れ、その上にアルツという粉状のお香<sup>こう</sup>を横一文字<sup>も</sup>に盛り、火<sup>は</sup>をつけます。この香炉は寺院では仏前に置かれますが、ゲル内では上座の仏像<sup>かみざ</sup>の前に置かれ、清めにも使われます。また、オヴォー<sup>つみいしづか</sup>（積石塚）やシャーマンの精霊像<sup>せいれい</sup>の前に置かれていることもあります。

名称 b ねづ松の芽〈アルツ〉

アルツは、ハイマツの一種であるねづ松のことですが。これを芽を粉にしたお香もアルツとよびます。香入れに灰を入れ、その上にアルツをおいて火をつけます。仏教寺院では、仏前で毎日<sup>た</sup>焚かれます。ゲル内でも清めに使われるほか、オヴォー祭や各種儀礼<sup>ぎれい</sup>のときにもアルツを焚いて清めが行われます。



## цацал

### DOI 15

名称 儀礼用さじ〈ツアツアル〉

ウランバートル／モンゴル

かちく ちち ささ いの  
 家畜の乳を天地の神々に捧げるために使われる道具です。遠くへ旅立つ人の無事を祈ったりする時に使われます。ツアツアルには9つのくぼみがあり、ここに乳を入れて旅立つ人の背中を見送りながら天に向かってふりかけます。ちなみに、「9」という数はモンゴルでは伝統的に最も縁起がいいとされる数字です。



a



хөөрөг

b



даалин

## хөөрөг

## D0116

名称 a 嗅ぎ煙草入れ〈フールグ〉

ウランバートル／モンゴル

かぎ<sup>たばこ</sup>煙草を入れる容器(フールグ)は、遊牧民男性が肌身離さず<sup>はだみはな</sup>携帯する宝物<sup>けいたい</sup>です。大理石や玉髓<sup>たからもの</sup>、青磁<sup>ぎよくすい</sup>など高価な素材で作られることが多く、昔から所有者の財力や社会的地位を示すシンボルでした。フールグは、来客や道中での突然の人との出会ったとき、お互いに交換し見せ合う形で使われます。例えば、ゲルの主人が来客に対して右手でフールグを差し出します。来客も同時に自分のフールグを右手で差し出し、手の平の中で器用に相手のものと交換します。受けとると蓋<sup>ふた</sup>をひっぱり<sup>りゅうし</sup>粒子状の中身を少しだけ左手親指のつけ根に取り出し、鼻に近づけて勢いよく<sup>す</sup>吸い込みます。(粒子はお香のような良いにおい。)蓋をしてからまた右手で相手に返して挨拶<sup>あいさつ</sup>が一段落します。フールグの素材や装飾、蓋のデザインなどで、財力や社会的地位がわかるようになっています。そういう意味では、江戸時代<sup>えど</sup>の日本の武士が持っていた印籠<sup>いんろう</sup>と少し似ています。

名称 b 嗅ぎ煙草入れ 袋〈ダーリン〉

これは、フールグを入れる絹製の袋「ダーリン」です。遊牧民の男性は、フールグを入れたこの袋を二つ折りにしてデール(長衣)の懐の中<sup>ふところ</sup>にしまいます。そして常に携帯することで、出会う人々との挨拶<sup>あいさつ</sup>に備えます。



**a** зодог

**b** шуудаг

**бөхийн өмсгөл**

**DOI17**

名称 **a 相撲用衣装 上衣〈ゾドグ〉**

ウランバートル／モンゴル

これはモンゴル相撲ずもうを使う時に選手が着るベストで、ゾドグといいます。モンゴル相撲では、引退することを「ゾドグを脱ぐ」という言い方をするとおり、選手生命のシンボルのような意味も持っています。モンゴル相撲には土俵がなく、肘ひじや膝、頭せなか、背中などが地面につくと負けとなりますが、地面に手をついたくらいでは負けにならないため、試合が何時間にもおよぶことがあります。

名称 **b 相撲用衣装 パンツ〈ショーダグ〉**

モンゴル相撲の選手が着るパンツでショーダグといいます。モンゴル相撲のことをモンゴル人はブフといいます。レスリングは自由形ブフ（チョロート・ブフ）、柔道じゅうどうはジュードー・ブフ（柔道ブフ）とよびます。つまり、レスリングも柔道もブフのカテゴリーに入っているのです。ショーダグはレスリングのパンツと似ています。

島村先生からのコメント

豊富な技の数々は、家畜かちくを捕まつかえたり転がしたりする遊牧生活の中で編み出されたといわれます。土俵もなく、投げ技中心のモンゴル相撲は、相撲よりもレスリングに近いスポーツです。

a хусуур



b ташуур



## МОРИНЫ ТОНОГХЭРЭГСЭЛ

### DOI18

名称 a 馬具 馬用汗取りべら〈ホソール〉

アルハンガイ県 ツェツェルノグ市／モンゴル

馬の汗取り用のへらをホソールといいます。ホソールをウマの体に押しあてながら沿わせ、すくい取った汗を振り落とすようにして使います。汗を拭かずにおくと、馬は体が冷えて熱を出すだけでなく、鞍のあたる部分が炎症をおこして傷になってしまうので、遊牧民にとって馬の汗取りは大事な作業なのです。ホソールの材料は、加工しやすいヤナギが好まれます。持ち手の部分の穴には、ハダク（儀礼用の青色の絹布）を巻きつけていることが多いです。ふだんはゲルの梁にはさんで保管されます。

名称 b 馬具 むち〈タシヨール〉

ムチのことをタシヨールといいます。モンゴルのムチの特徴は、木製のグリップがついていることです。木は軽い柳などが使われることが多いですが、ヤギの足などが使われることもあります。ムチのことをソルといいます。牛革製です。輪っか状のムチに手首を通して木のグリップを握ります。馬は、左手に手綱、右手にタシヨールを持って、ときどき馬の尻を叩いて走らせます。

#### 島村先生からのコメント

タシヨールを持ったままゲルの中に入るのは、タブーなんですよ。



## Монгол шатар

### D0119

名称 **モンゴル・チェス〈モンゴル・シャタル〉**

アルハンガイ県ツェツェルノグ／モンゴル

チェスのことをモンゴル語ではシャタルといいます。チェスは、紀元前のインドが起源のボード・ゲームですが、モンゴルへは12-13世紀頃、ペルシャ（現在のイラン）から入ってきたといわれています。シャタルという名前もペルシャ語のシャトランジが訛ったものです。ヨーロッパのチェス同様、モンゴル・チェスでも8マス×8マスの市松模様の盤を使います。盤はフェルト製と木製があります。2人のプレーヤーがそれぞれ16個の駒を奪い合います。駒の種類が6種なのは、チェスと同様ですが、その種類は、王、妃、戦闘車（2駒）ラクダ（2駒）、ウマ（2駒）、子/ヒツジ（8駒）と異なります。王を取ると勝ちです。

#### 島村先生からのコメント

モンゴル・チェスは、ユーラシアに広がるチェス文化のひとつです。ヨーロッパのチェスのビショップがラクダだったり、ナイトがウマだったり、ボーン（兵）がヒツジだったり、遊牧文化の特徴がうかがわれますね。



## Шагай

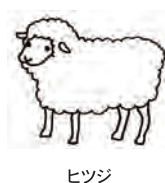
### DOI20

名称 羊のくるぶしの骨 〈シャガイ〉

ウランバートル／モンゴル

シャガイは、ヒツジのくるぶしの骨（<sup>ほね</sup>距骨<sup>きよこつ</sup>）のおもちゃです。遊牧民は、ヒツジの<sup>ほねつ</sup>骨付き肉を食べた後、くるぶしの骨をとっておきます。これを煮込んで<sup>にこ</sup>脂<sup>あぶら</sup>を出したら、そのまま遊び道具となります。距骨は、ヒツジの左右の後ろ足に一つずつあるので、一頭のヒツジから2つのシャガイがとれます。子ども達はこれをたくさん集めて遊んでいます。シャガイの4つの面には、それぞれラクダ、ウマ、ヒツジ、ヤギという名前が付けられており、サイコロの目<sup>やくわり</sup>のような役割を果たします。例えば、四つを投げて出た目がみんなウマだった場合、非常にラッキーだということになります。

参照資料：『シャガイの遊び方』





## МОДОН ОНЬС

### D0121

名称 **立体パズル〈モドン・オニス〉**

ウランバートル／モンゴル

モンゴル語でモドン・オニス（木のつなぎ具）とよばれる立体パズルは、複雑です。そのつくりは、釘くぎを使わないモンゴルの寺院建築の接合部との類似しているともいわれています。



パズルのピースは全部で 33 個あります。ぜひチャレンジしてみてください！

#### 島村先生からのコメント

一度バラバラにすると組み立てるのは、すごく難しいんです！ モンゴルの博物館には多くの種類の立体パズルが展示てんじされていますので、興味のある方はぜひ！



## ДЭНШИГ

### D0122

名称 チベット・モンゴル仏教のシンバル状の法具

ウランバートル／モンゴル

これはチベット・モンゴル仏教でラマ僧たちが瞑想するとき使用する銅製の法具です。チベットでは、ティンシャとよばれますが、モンゴルではデンシグといいます。デンシグは、小さいシンバル2つを革ひもで繋げた形状をしています。革ひもの部分を両手で持ち、シンバル2つを地面に平行にして縁を当てて音を鳴らします。澄んだ高い音があたりに広がります。チベットやモンゴルでは、これを鳴らすと悪いモノを祓うことができるとされてきました。

a



b



## ХӨГЖИМ CD

### DOI23

名称 **a 音楽 CD 〈ホグジム CD(ホーミー)〉**

ウランバートル／モンゴル

この CD は、今は亡き往年のホーミーの名手、T. ガンボルド氏のアルバムです。ホーミーとは、一人の歌手が同時にバグパイプのような低い音と口笛のような高い音色を発する、ロシア・トゥバ共和国やモンゴル西部を含むアルタイ山脈周辺で発達した独特の歌唱法です。そもそもホーミーは、アルタイ山脈の山の神を讃えるための歌の歌唱法の一つでした。しかし 20 世紀になり、ソ連から合唱文化が導入された結果、歌詞を歌わずにメロディーだけをホーミーで独唱するスタイルが新たに作られました。このアルバムでは、歌詞のないホーミーはもちろん、歌詞のあるホーミーも楽しむことができます。

名称 **b 音楽 CD 〈ホグジム CD(オルティンドー)〉**

この CD は、20 世紀を代表するモンゴルの民謡オルティンドーの巨匠、故ノロバンザド女史のアルバムです。オルティンドーとは、モンゴル語で〈長い歌〉という意味です。長い歌という名が示す通り、天にも届くような高い声を拍節なしで息の長い発声をする歌唱法です。この歌唱法は、モンゴルのどこまでも続く大草原や流れる雲、草原に吹く風、草が揺れる様子などを大らかに表現したものです。

島村先生からのコメント

a 来日経験が豊富で親日家だったガンボルド氏ならではの、赤とんぼなど日本の童謡をホーミーで聞けるので、きっと親しみがもてることでしょう。

b 目をつぶってノロバンザドさんの歌声に耳を澄ますと、きっと広大なモンゴル高原の景色が目に浮かんできますよ。





## “Хөгжмийн зэмсгүүд”

D0124

名称 **楽器〈フグジミン・ゼムセグード〉(絵本)**

ウランバートル／モンゴル

モンゴルの伝統的な楽器について説明した絵本です。実際に音も聞くことができます。モンゴルの伝統楽器は「国際的」です。馬頭琴<sup>ばとうきん</sup>だけでなく、チベット・モンゴル仏教<sup>ぎらい</sup>の儀礼で使われていたラッパを改造したブレー、コントラバスを参考に 20 世紀に新しく作られた馬頭のイヒ・ホール<sup>ちゅうか</sup>、中華三味線のシャンズ、中央アジアのテュルク系諸民族が使ってきた弦楽器トプシヨール<sup>げんがつき</sup>など、さまざまな外部の文化を取り入れながら、モンゴルの「民族音楽」や「伝統音楽」が形作られてきたことがわかります。



## зураг

### DOI25

名称 絵画 〈ゾラグ〉

ウランバートル／モンゴル

これは、モンゴルのブリューゲルと称されるシャラブの絵画を模した絵画です。遊牧民の秋の一日を表現したものです。手前にはオールガとよばれる長い竿で馬をつかまえている牧民が描かれています。またフェルトを作っているシーンや馬乳酒をつくっているところも描かれています。ゲルの白い屋根には、アーロールとよばれる乳製品を木枠に入れて干しているのも見受けられます。一枚の中にさまざまな牧畜作業が描かれているのが本作の魅力です。

#### 島村先生からのコメント

絵の細部を見て、ぜひ何のシーンなのか、考えてみてください。



морин хуур

D0126

オプション

名称 馬頭琴〈モリンホール〉 ※まつやに付

ウランバートル／モンゴル

1000年も前からモンゴルに伝わるといわれている楽器です。愛しているウマが殺されてしまい、そのウマをしのんで作られたという物語がよく知られています。日本でも『スーホの白い馬』という話が有名です。四角い胴の二弦琴で、竿の頭にウマが彫刻されています。昔は弦も弓もウマの尻尾で作られていましたが、最近では人工弦が主流です。

〔参考文献〕 梅棹忠夫 1990『モンゴル研究』中央公論社

吉田忠正著・小長谷有紀監修 2007『体験取材!世界の国ぐに—13 モンゴル』ポプラ社

参照資料 : 『暮らしがわかるアジア読本 モンゴル』 P.186~189,205  
 『草原の遊牧文明』 P.75,95  
 『季刊民族学』 No.85 P.66~71、 No.112 P.90~91

取扱注意 まつやにが手や衣服につくとべたべたします。直接ふれないでください。

